

無痛分娩マニュアル

<準備>

- 分娩室内スタッフは全員サージカルマスク、帽子を着用する
- 生体情報モニターとパルトグラムを装着する
- 末梢静脈ラインの確保、必要に応じて輸液を行う
- 無痛分娩関連物品や器材を確認する

<穿刺>

- タイムアウト(本人確認、同意書の確認、最終飲食・アレルギー・検査データ・抗凝固薬・抗血小板薬内服等の確認)
- 左側臥位の体勢をとってもらい穿刺位置の確認を行う(原則 L3/4、場合により L2/3、正中法で行う。適宜超音波を用いて椎間を確認する)
- 手指消毒をした後、滅菌手袋を装着、カテーテル固定まで清潔操作とする
- 0.5%クロルヘキシジンまたはイソジンにて消毒を行い穴開きドレープをかける
- 1%カルボカインで局所麻酔を行う
- 硬膜外針を穿刺し、抵抗消失法にて硬膜外腔まで到達したらカテーテルを挿入する
- テストドーズを行い、両下肢の運動障害などクモ膜下迷入を疑う所見や、めまい・耳鳴りなど血管内迷入を疑う所見がないことを確認する

<初期投与>

- 局所麻酔薬を左側臥位・右側臥位それぞれ 1-2 回ずつ、合計 3-4 回投与する
- 初期投与中は、血圧が下がりやすいため要注意
- 最終初期投与から 20~30 分程度のところで、麻酔の効果判定の cold test を行う
- 麻酔域が不十分だったり、片効きの場合は、カテーテルの位置調整または再穿刺を検討する

<持続投与>

- 初期投与で麻酔域が問題なければ CADD-Solis に麻酔薬を充填し持続投与を開始する

<終了後>

- 分娩後にカテーテルは抜去し、下肢の運動障害や感覚障害がないことを確認する